

報道関係各位

2011(平成23)年 1月27日

少子高齢化が進む隠岐の離島、海士町に 島民の声から生まれた**オリジナルの母子手帳**が誕生！ ～海士町×博報堂生活総合研究所「日本の母子手帳を変えよう」プロジェクト～

海士町(島根県隠岐郡)と博報堂生活総合研究所(東京都港区、以降「生活総研」)はこのたび、**海士町のお母さんたちの意見を取り入れた新しい母子手帳を共同開発**いたします。

これは、日本全国のお母さん・お父さんとの対話を通じて‘次世代の母子手帳’の実用化と普及を進める「日本の母子手帳を変えよう」プロジェクト(生活総研が2010年10月開始)の一環で、少子化や小児科医不足、産後うつなどの育児を取り巻く社会的課題の解決に貢献することを目指しています。「過疎化や高齢化など、多くの地域が抱える問題が凝縮されている海士町で、新しい母子手帳を開発・運用することで研究を深め、得られた知見を全国へ発信したい」(生活総研)との考えから、モデル地域の一つとして当町が選ばれました。



子どもたちは島の宝。子育て支援は島の必須課題！

生活総研はこれまでに、公式サイト上で集まった意見や要望を元に新たな機能やデザインを盛り込んだプロトタイプを作成。海士町では2月10日に、そのプロトタイプを評価、検証するワークショップを開催します。海士町在住のお母さん約10名が集まり、島内保健師、保育士などと共に、意見交換を行います。ここでの意見を踏まえて母子手帳を改良し、町議会への提案を経て、4月から新・母子手帳の使用を開始します。

海士町は2004年、少子高齢化対策として「すこやか子育て支援に関する条例」を制定。山内町長は職員の給与カット分を「未来への投資に使う」と公言し、地域ぐるみで子育て支援に取り組んできました。島内に産院が無いなどの厳しい出産環境にありながら、祝い金や各種助成金などの手厚い施策で、町民の妊娠・出産・子育てを支えています。

今回の母子手帳開発にあたり、町長は「**子どもは島の宝。この島で子どもを産み、育ててくれるお母さん、お父さんへの町からの感謝の気持ちを込め、子育てを支える必須道具として、新・母子手帳を手渡したい**」としています。海士町は今後も、多くの子どもが生まれ育つ『子育ての島』へと進化することを目指し、各種支援策を継続して参ります。

《 母子手帳ワークショップの概要 》

- 日 程 : **2月10日(木曜) 10:00～11:30**
- 会 場 : 海士町 けいしょう保育園
- 参加者 : 海士町の20～30代のお母さん(妊婦含む)約10名、海士町保健師、保育園関係者他3～4名
- 内 容 : お母さん持参の現・母子手帳と新・母子手帳のプロトタイプを比較して改良点を見つけたり、新・母子手帳の表紙デザイン案の検討、海士オリジナルページに関する意見交換など。

《本件の問合せ窓口》 海士町教育委員会 担当:西上 【電話】08514-2-1222 【携帯】090-3619-2521

※「日本の母子手帳を変えよう」プロジェクトに関しては ⇒広報デスク :福嶋 【電話】06-4391-7156
(プランニング・ボード)